



ハトムギプロジェクトについて説明する田上部長

特産品流通や地域福祉に理解

氷見高・HIMI学

氷見高校の農業科学、海洋科学、生活福祉の各科の1年生80人が25日、富山市や氷見市などの農水産品の生産現場や教育現場を訪れ、特産品の生産、加工、流通過程や地域福祉の在り方に理解を深めた。

同校が本年度設けた総合的な学習の時間「HIMI学」の一環として開催。農業科学、海洋科学両科の生徒は、富山市の食品会社「源」や県中央植物園、JAなのはな呉羽梨選果場を訪れた。生活福祉科は射水市の富山福祉短大、富山情報ビジネス専門学校で福祉関連の職業とコミュニケーションの取り方を学んだ。

最後に同校で、JA氷見市の田上政輝総合企画担当部長が「はと麦きれいプロジェクト」について講演。氷見産ハトムギをはとむぎ茶やハトムギエキス飲料などに加工し付加価値を付けて販売している取り組みを示し、「ハトムギが売れば氷見も活性化する。一部が潤うのではなく、地域全体が元気になる仕掛けづくりが重要」と強調した。